

「人生は20年×4回」
(数学者・森毅)

宮本市政 がスタート 『新しい守山市を創る』

初登庁で決意

待機児童の解消や駅前活性化など 県と対話し、連携も

任期満了に伴う守山市長選で、当選を果たした宮本和宏新市長が、2月21日午前8時、市役所に自転車で駆けつけ初登庁した。前庭には市民や市職員、後援会関係者ら約300人が出迎え、花束を渡すなど門出を祝った。市役所大ホールで就任式が開かれ、市職員ら約250人を前に宮本新市長は「4年間の市政を担うことになった。7万8千人の市民生活に思いを込め、その重責をひしひしと感じている。先代の市長が築かれた業績や人の絆を大切にしながら、市に山積する課題に取り組む」と決意を述べた。

記者会見で「住みやすさ」「活力」を強調する宮本新市長



このあと、宮本新市長は記者会見にのぞみ次のように語った。
―当選後の期間中、ゆつくりされましたか。
「自治会長さんや議

員の方々へのあいさつ回りなど。また3月3日から始まる市議会についての勉強もあり、休みがとれなかった」。

―守山市の課題が山積していますが。
「待機児童の解消をはじめ子育て支援、市民の健康づくり、地域交通の充実、駅前の活性化、企業誘致など当面する課題がある。選挙公約でのべた住みやすさ」と活力の2つをバランスよくやっていく。税収をふやす活力も必要で、借金を増やさない。民間で出来ることは民間でやる。また、市民の知恵と力、地域力を活かした守山大好き条例制定の基盤づくり、

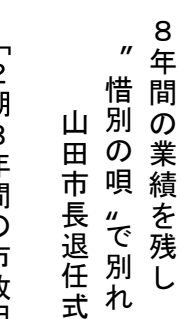
2つをバランスよくやっていく。税収をふやす活力も必要で、借金を増やさない。民間で出来ることは民間でやる。また、市民の知恵と力、地域力を活かした守山大好き条例制定の基盤づくり、

「庁舎を活気づけていきたい。若い職員が仕事を前向きにやれるふん困気づくりが大切だ」。

―県と市との関係はどうしますか。
「知事としっかり対話したい。琵琶湖の環境

守山春秋

守山市長選に思う
総括と課題



8年間の業績を残し、惜別の唄で別れ
山田市長退任式

「2期8年間の市政担当がありとうとう守山市の山田亘宏市長の退任式が2月18日、市役所であり市職員や市民

この日の退任式で、山田市長は心残りが3つあると前置きし「市立守山女子高校の立命館移管で、女子高の皆さんにづらい思いをさせて申し訳なかった。そんな中で生徒達が無

◇山田市政からバトンを引き継いだ宮本新市長は、2月21日に初登庁し宮本市政が本格始動した。「住みやすさ」「活力」の二刀流施策を掲げた公約に市民の期待がかかる。◇その「住みやすさ」

大の目的だったが、寒波襲来で標高900m以上は一面に積雪、紀元杉へのルートは閉鎖されていた。やむをえず標高千mに広がるヤクスギランドの原生林を約1時間散策し、紀元杉に準ずる屋久杉を見て回った。中でも推定樹齢千八百年の「仏陀杉」は散策ルート沿いにあって仏の顔に似た大きなコブを幹下

かし65歳以上の高齢者が占める割合は16・8%で、6人に1人が高齢者だ。県内の平均高齢化率の約25%に比べると、守山市の場合低いものの10年後には21・1%に増え5人に1人となる。

◇一方、守山市長選を総括してみると、両氏の得票数は宮本和宏氏18443票、小嶋宣秀氏13073票。その差5370票だが、小嶋氏の確得票数は重い。小嶋氏が選挙中に訴えた公約「市長給与3割カットや市議会の議員定数の見直し」は財政難のあり、自ら身を削る姿勢に賛同する市民の声を聞いた。



トビツク 屋久島・南九州へ 歴史遺産と鎮魂の旅 特派員報告

厳冬の湖国を脱して南国でひと息を―という思惑は見事にはずれた。1月23日伊丹空港から「屋久島・南九州と指宿温泉大感謝祭、3日間」というツアーに参加したが、南国のイメージは吹き飛び寒風に参った。

会館へ。沖縄特攻で散華された千三十六人の隊員の写真や遺品、手紙類に悲惨な戦争の実態が明らかにされていた。陸軍四式戦闘機「疾風」など特攻機も展示され、勇ましさと悲しさに打たれた。現在の高校生に匹敵する十七、十八歳で、出撃したあどけない表情の

を見学、二百数十年前の屋敷などがそのままの屋敷と保存、公開された血のついた槍の洗い場まで残されていたのに

「仏陀杉」の迫力に圧倒
若い特攻隊員の遺書に悲嘆

「人生は20年×4回」(数学者・森毅)

最終日は、桜島を築山に、錦江湾を池に見立てた壮大な借景庭園島津家別邸仙巖園(磯庭園)を観賞し、合わせて近代日本発祥の地と称賛される各種近代

民健康保険税額は18万3400円(8年前比3万6千円増)で2年連続して上がった。このため、健康づくりと医療の関係は宮本新

事に卒業してくれたことをうれしく思う」と語り、栗東市の新幹線駅建設中止にふれ「実現できなかったことは残念だった。滋賀の将来に禍根を残すのではないかと危惧した。また、市職員に対し「守山も高齢者が増えており、生活現場に目を向けて最後の関門に光を当てる支援と行政サービスをお願いしたい」とあいさつした。

このあと、花束贈呈などがあり最後に「惜別の唄」を皆さんで合唱し別れを惜しんだ。市長の柱となろう。



樹齢千八百年の仏陀杉は観光客に人気